

合意形成に関する検討グループ・牧野組合との意見交換会における意見のまとめ

注) 環境省「平成13年度国立公園内景観維持モデル事業報告書」より
平成13年7月以降、牧野組合長連合会議、モーモー輪地中間報告会の開催を経て、同年12月「草原がもつ様々な価値の活かし方を考える会」を開催。

草原維持の基本は畜産振興

- 草原維持の基本は畜産振興という考えが共通認識であるが、畜産だけで守っていくことは困難であり、土地利用の見直しも含めた総合的な対策の必要性も認識されている。
- BSE問題で畜産農家は厳しい状況にあるが、今こそ草原の草を食べたヘルシーな草原牛の振興のチャンスであり、阿蘇の草原をアピールしていくことが期待されている。

多様な人々の参加による草原保全のしくみづくりが重要

- そのためにも阿蘇の草原の理解者を増やすこと、税も含め幅広い受益者からの負担も視野に入れて、多様な人々の参加による草原保全のしくみを作っていくことが重要である。
- 地域外の人々の草原保全への参加・協力意識を高めるためには、阿蘇の草原の現状を知ってもらうことが出発点であり、そのための一つの方法として、ハイキングや散策の場として牧野を開放して草原を体験してもらうことが有効である。
- 一方で、住民自身が地域に誇りを持ち、都市との交流を進めていくことが重要である。

都市との連携に向け双方にメリットのある草原の多目的利用を進める

- 阿蘇の草原は全国一の規模を有し、古代のロマンにつながるような魅力的なポイントも多いことから、質の高いトレッキングコースとしての活用が期待されている。
- 観光業者によるトレッキングツアーの企画が動き始めており、広大な阿蘇ならではのトレッキングツアーを実現するため、牧野組合の協力が求められている。
- 牧野組合としては、草原の開放に対して理解を示すものの、ゴミや植物乱獲の問題発生を懸念しており、来訪者に対するマナー遵守の徹底、草原維持管理に関する認識の啓発を条件としている。
- 草原の多目的利用にあたっては、それが牧野組合等の地域にもメリットとなるしくみづくりや一定のルールづくりが重要である。

一定の条件の下で草原の活用は可能

- 草原への立ち入りについては、行動ルールや立ち入り可能区域等を明確にすることで、ある程度、牧野組合側の受け入れが可能な状況になってきている。
- 野焼き・輪地切りボランティア活動参加者に対するお礼の意味で、草原をレクリエーションの場として開放するなど、お互いにメリットのある形も牧野組合側から提案された。

地域内の個々の取り組みから推進し、結果的に広大な阿蘇の草原を守る

- 個々ができるところから進め、また、行政、民間、業者など異分野の人々が連携し、相互に補完しながら広大な阿蘇の草原保全に取り組んでいくことが必要である。